横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令和５年５月 12 日
政策局統計情報課

「令和２年度　横浜市の市民経済計算」がまとまりました

～コロナ禍における経済成長率は名目 -1.9% と６年ぶりに減少、実質 -3.3% と２年連続の減少～

市民経済計算とは

国民経済計算（ＧＤＰ統計）の概念を市に適用し、各種統計結果をもとに、横浜市の経済規模や構造、所得水準などを体系的に明らかにするものです。市内あるいは市民の１年間の経済活動によって生み出された付加価値（経済活動の成果）を生産、分配、支出の側面から推計しています。

令和２年度推計結果の概要

経済規模

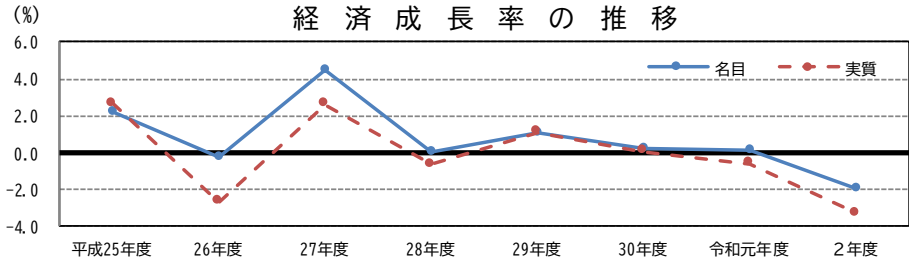
市内総生産（名目）　14 兆 632 億円

神奈川県の県内総生産（33 兆 9055 億円）に占めるシェア	41.5%
国内総生産（537 兆 5615 億円）に占めるシェア	2.6%

市内総生産（実質）　13 兆 6639 億円

経済成長率

名目経済成長率　-1.9%　実質経済成長率　-3.3%

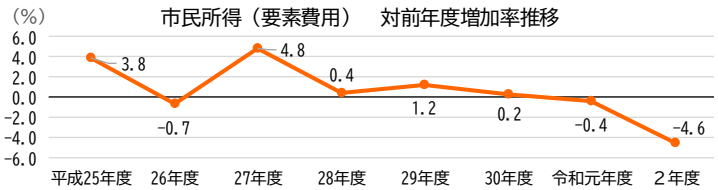


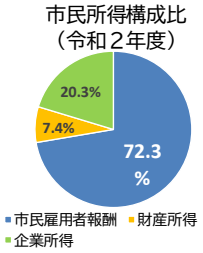
	平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	２年度
名 目	2.2%	△ 0.2%	4.5%	0.1%	1.1%	0.3%	0.2%	△ 1.9%
実 質	2.7%	△ 2.7%	2.6%	△ 0.6%	1.1%	0.1%	△ 0.6%	△ 3.3%

（参考）神奈川県の経済成長率（２年度）　名目　-3.2%　実質　-4.3%
　　国の経済成長率（２年度）　名目　-3.5%　実質　-4.1%

市民所得

市民所得（要素費用表示）　12 兆 5271 億円（対前年度増加率 -4.6%）





１人当たり市民所得　331 万６千円（対前年度増加率 -5.2%）

（参考）１人当たり国民所得 297 万５千円　県民所得 296 万１千円

＊神奈川県及び国の数値については、「注意事項」をご覧ください。

各系列の推計結果

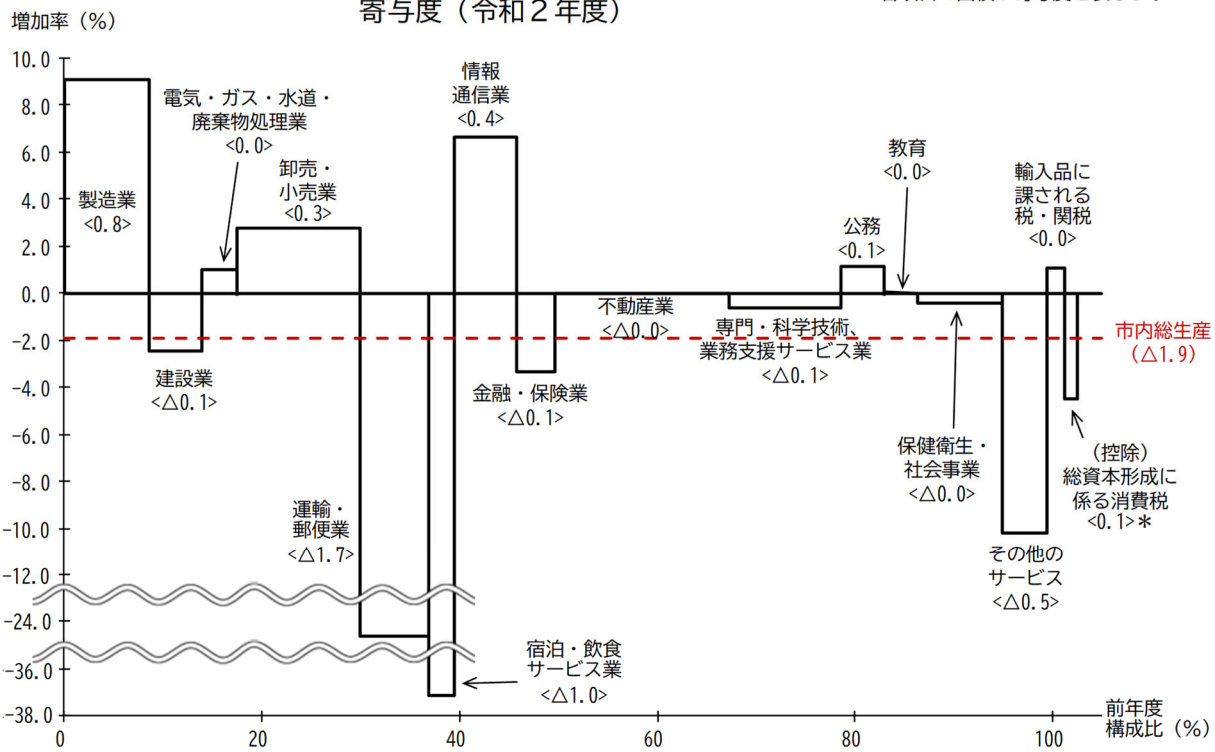
1　市内総生産（生産側）　～16業種中９業種が減少～

・市内総生産（生産側）は14兆632億円で、対前年度増加率が1.9%減と６年ぶりの減少
・対前年度減少率は、「第三次産業」が2.9%減、「第二次産業」が4.7%の増
・最もマイナスに寄与したのは「運輸・郵便業」（第三次産業）で、寄与度△1.7%
・最もプラスに寄与したのは、「製造業」（第二次産業）で寄与度0.8%

	実数（百万円）				対前年度増加率（%）			構成比（%）
	平成29年度	30年度	令和元年度	**２年度**	平成30年度	令和元年度	**２年度**	**２年度**
市内総生産（生産側）	14,274,711	14,311,721	14,336,089	**14,063,156**	0.3	0.2	**△ 1.9**	**100.0**
第一次産業（農林水産業）	8,055	7,083	6,679	**6,162**	△ 12.1	△ 5.7	**△ 7.7**	**0.0**
第二次産業	2,055,139	2,032,778	1,983,397	**2,076,921**	△ 1.1	△ 2.4	**4.7**	**14.8**
鉱業	－	－	－	**－**	－	－	**－**	**－**
製造業	1,303,474	1,318,990	1,231,899	**1,344,085**	1.2	△ 6.6	**9.1**	**9.6**
建設業	751,665	713,788	751,498	**732,836**	△ 5.0	5.3	**△ 2.5**	**5.2**
第三次産業	12,119,595	12,172,704	12,272,494	**11,911,712**	0.4	0.8	**△ 2.9**	**84.7**
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	516,315	534,020	507,659	**512,747**	3.4	△ 4.9	**1.0**	**3.6**
卸売・小売業	1,837,313	1,755,541	1,802,655	**1,852,651**	△ 4.5	2.7	**2.8**	**13.2**
運輸・郵便業	930,179	960,313	980,792	**739,504**	3.2	2.1	**△ 24.6**	**5.3**
宿泊・飲食サービス業	406,475	410,204	381,226	**239,821**	0.9	△ 7.1	**△ 37.1**	**1.7**
情報通信業	908,949	911,566	903,749	**963,767**	0.3	△ 0.9	**6.6**	**6.9**
金融・保険業	537,707	552,362	542,847	**524,746**	2.7	△ 1.7	**△ 3.3**	**3.7**
不動産業	2,550,988	2,536,764	2,531,392	**2,531,098**	△ 0.6	△ 0.2	**△ 0.0**	**18.0**
専門・科学技術、業務支援サービス業	1,522,183	1,565,746	1,622,221	**1,611,839**	2.9	3.6	**△ 0.6**	**11.5**
公務	614,983	623,864	628,975	**636,330**	1.4	0.8	**1.2**	**4.5**
教育	493,725	495,540	496,518	**496,812**	0.4	0.2	**0.1**	**3.5**
保健衛生・社会事業	1,141,371	1,170,915	1,218,319	**1,213,376**	2.6	4.0	**△ 0.4**	**8.6**
その他のサービス	659,407	655,869	656,141	**589,021**	△ 0.5	0.0	**△ 10.2**	**4.2**
輸入品に課される税・関税	237,506	251,116	247,609	**250,233**	5.7	△ 1.4	**1.1**	**1.8**
(控除)総資本形成に係る消費税	145,584	151,960	174,090	**181,872**	4.4	14.6	**4.5**	**1.3**

市内総生産の増加率に対する経済活動別（産業別）寄与度（令和２年度）

<各項目の面積が寄与度を表します>



＊「総資本形成に係る消費税」は控除項目であり、その増加が市内総生産の減少に寄与するため、増減を反転させて表示しました。
各産業の合計を100としている（「輸入品に課される税・関税」、及び「(控除）総資本形成に係る消費税」を除いています)ため、前年度の構成比は上表と一致しません。

＜寄与度＞
寄与度とは全体の増減率に対し、各構成項目が、どの程度増加（減少）に影響しているかを示す指標です。グラフでは各構成項目が縦長又は横長の四角形で表されていますが、この四角形の面積の大きさが寄与度の大きさを表しており、 四角形が横軸の上にあれば増加に寄与し、下にあれば減少に寄与していることになります。

2　市民所得（分配側）　～財産所得は微増となったものの、市民雇用者報酬、企業所得が減少～

・市民所得は12兆5271億円で、対前年度増加率が4.6%減と２年連続の減少

・対前年度増加率は、「財産所得」が0.0%増と微増となったものの、「市民雇用者報酬」が3.0%減、「企業所得」が11.4%減

・最もマイナスに寄与したのは「民間法人企業所得」で、寄与度△2.8%

	実数（百万円）				対前年度増加率（%）			寄与度（%）	構成比（%）
	平成29年度	30年度	令和元年度	**２年度**	平成30年度	令和元年度	**２年度**	**２年度**	**２年度**
市民所得(要素費用表示)	13,161,952	13,188,514	13,129,949	**12,527,060**	0.2	△ 0.4	**△ 4.6**	**△ 4.6**	**100.0**
市民雇用者報酬	9,022,667	9,340,187	9,334,898	**9,058,209**	3.5	△ 0.1	**△ 3.0**	**△ 2.1**	**72.3**
賃金・俸給	7,777,569	8,042,838	8,022,076	**7,737,609**	3.4	△ 0.3	**△ 3.5**	**△ 2.2**	**61.8**
雇主の社会負担	1,245,098	1,297,349	1,312,822	**1,320,600**	4.2	1.2	**0.6**	**0.1**	**10.5**
財産所得	1,018,524	945,802	924,321	**924,481**	△ 7.1	△ 2.3	**0.0**	**0.0**	**7.4**
一般政府（地方政府等）	△ 12,395	△ 9,376	△ 1,803	**△ 9,496**	24.4	80.8	**△ 426.7**	**△ 0.1**	**△ 0.1**
家計	1,020,895	944,383	916,451	**924,309**	△ 7.5	△ 3.0	**0.9**	**0.1**	**7.4**
対家計民間非営利団体	10,024	10,795	9,673	**9,668**	7.7	△ 10.4	**△ 0.1**	**△ 0.0**	**0.1**
企業所得	3,120,761	2,902,525	2,870,730	**2,544,370**	△ 7.0	△ 1.1	**△ 11.4**	**△ 2.5**	**20.3**
民間法人企業	2,255,331	2,037,994	2,057,200	**1,695,981**	△ 9.6	0.9	**△ 17.6**	**△ 2.8**	**13.5**
公的企業	△ 217,435	△ 191,664	△ 220,846	**△ 186,186**	11.9	△ 15.2	**15.7**	**0.3**	**△ 1.5**
個人企業	1,082,865	1,056,195	1,034,376	**1,034,575**	△ 2.5	△ 2.1	**0.0**	**0.0**	**8.3**

3　市内総生産（支出側）～公的総固定資本形成は増加するも、民間最終消費支出が大幅に減少～

・市内総生産（支出側）は14兆632億円で、対前年度増加率が1.9%減と６年ぶりに減少

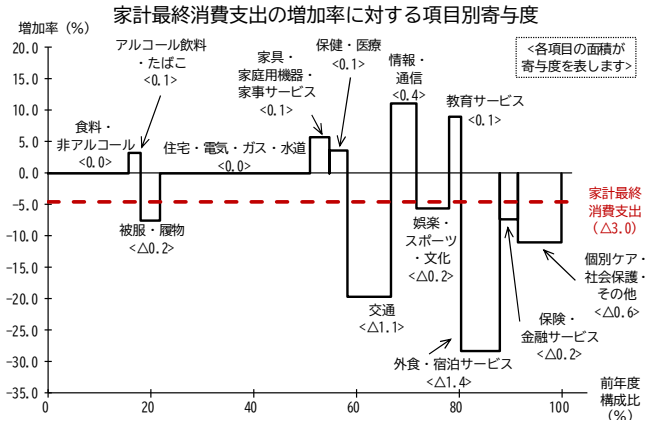
・対前年度増加率は、「民間最終消費支出」が4.0%減、「地方政府等最終消費支出」が 1.1%増、「市内総資本形成」が7.2%減

・最もマイナスに寄与したのは「民間最終消費支出」のうちの「家計最終消費支出」で、寄与度△3.0%

	実数（百万円）				対前年度増加率（%）			寄与度（%）	構成比（%）
	平成29年度	30年度	令和元年度	**２年度**	平成30年度	令和元年度	**２年度**	**２年度**	**２年度**
市内総生産（支出側）	14,274,711	14,311,721	14,336,089	**14,063,156**	0.3	0.2	**△ 1.9**	**△ 1.9**	**100.0**
民間最終消費支出	10,008,755	10,001,163	9,917,702	**9,519,609**	△ 0.1	△ 0.8	**△ 4.0**	**△ 2.8**	**67.7**
家計最終消費支出	9,781,442	9,793,812	9,691,380	**9,258,754**	0.1	△ 1.0	**△ 4.5**	**△ 3.0**	**65.8**
対家計民間非営利団体最終消費支出	227,313	207,351	226,322	**260,855**	△ 8.8	9.1	**15.3**	**0.2**	**1.9**
地方政府等最終消費支出	1,521,232	1,544,681	1,589,190	**1,607,321**	1.5	2.9	**1.1**	**0.1**	**11.4**
市内総資本形成	3,178,167	3,241,481	3,373,020	**3,131,640**	2.0	4.1	**△ 7.2**	**△ 1.7**	**22.3**
総固定資本形成	3,126,339	3,193,377	3,275,691	**3,224,203**	2.1	2.6	**△ 1.6**	**△ 0.4**	**22.9**
民間総固定資本形成	2,592,998	2,571,044	2,581,758	**2,457,813**	△ 0.8	0.4	**△ 4.8**	**△ 0.9**	**17.5**
住宅	647,116	598,072	569,974	**514,923**	△ 7.6	△ 4.7	**△ 9.7**	**△ 0.4**	**3.7**
企業設備	1,945,882	1,972,972	2,011,784	**1,942,890**	1.4	2.0	**△ 3.4**	**△ 0.5**	**13.8**
公的総固定資本形成	533,341	622,333	693,933	**766,390**	16.7	11.5	**10.4**	**0.5**	**5.4**
住宅	5,426	14,647	40,556	**9,434**	169.9	176.9	**△ 76.7**	**△ 0.2**	**0.1**
企業設備	200,464	228,818	311,210	**352,386**	14.1	36.0	**13.2**	**0.3**	**2.5**
一般政府(中央政府等・地方政府等)	327,451	378,868	342,167	**404,570**	15.7	△ 9.7	**18.2**	**0.4**	**2.9**
在庫変動	51,828	48,104	97,329	**△ 92,563**	－	－	－	**△ 1.3**	**△ 0.7**
民間企業	45,221	56,247	76,040	**△ 55,325**	－	－	－	**△ 0.9**	**△ 0.4**
公的（公的企業・一般政府）	6,607	△ 8,143	21,289	**△ 37,238**	－	－	－	**△ 0.4**	**△ 0.3**
財貨・サービスの移出入（純）・統計上の不突合	△ 433,443	△ 475,604	△ 543,823	**△ 195,414**	－	－	－	**2.4**	**△ 1.4**
財貨・サービスの移出入（純）	△ 843,456	△ 817,103	△ 912,814	**△ 715,578**	－	－	－	**1.4**	**△ 5.1**
統計上の不突合	410,013	341,499	368,991	**520,164**	－	－	－	**1.1**	**3.7**

	市内総生産（億円）		構成比（%）	増加率（%）	寄与度（%）
	令和元年度	２年度			
家計最終消費支出	96,914	92,588	100.0	△ 4.5	△ 3.0
食料・非アルコール	15,287	15,290	16.5	0.0	0.0
アルコール飲料・たばこ	2,265	2,338	2.5	3.2	0.1
被服・履物	3,498	3,238	3.5	△ 7.4	△ 0.2
住宅・電気・ガス・水道	28,391	28,379	30.7	△ 0.0	△ 0.0
家具・家庭用機器・家事サービス	3,590	3,800	4.1	5.8	0.1
保健・医療	3,421	3,545	3.8	3.6	0.1
交通	8,191	6,582	7.1	△ 19.6	△ 1.1
情報・通信	4,820	5,356	5.8	11.1	0.4
娯楽・スポーツ・文化	6,246	5,891	6.4	△ 5.7	△ 0.2
教育サービス	2,251	2,453	2.6	9.0	0.1
外食・宿泊サービス	7,328	5,251	5.7	△ 28.3	△ 1.4
保険・金融サービス	3,311	3,065	3.3	△ 7.4	△ 0.2
個別ケア・社会保護・その他	8,316	7,399	8.0	△ 11.0	△ 0.6

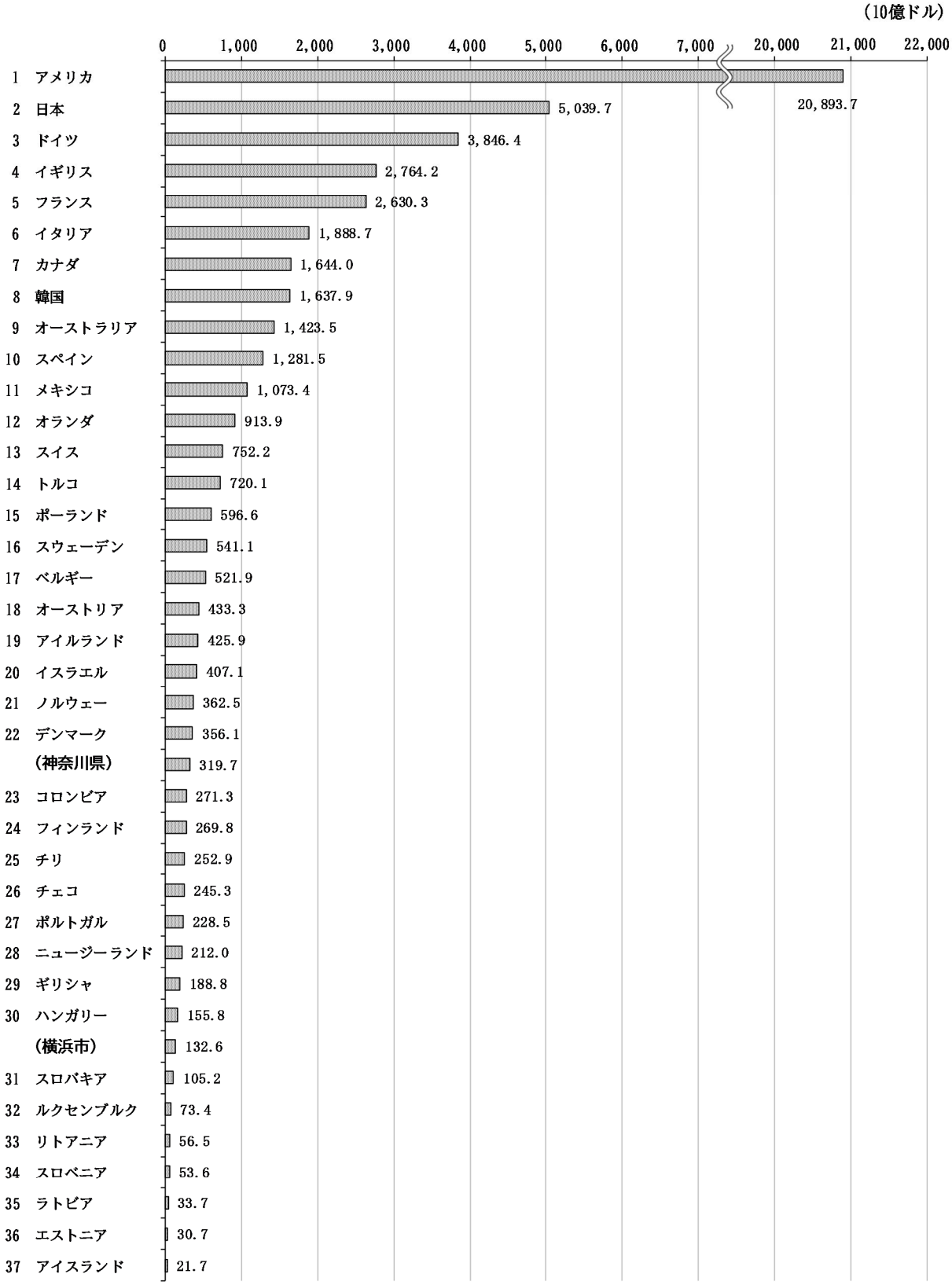
家計最終消費支出の増加率に対する項目別寄与度



ＯＥＣＤ諸国との経済規模比較

ＯＥＣＤ諸国の国内総生産と横浜市の市内総生産を比較すると、横浜市は 30 位のハンガリーと 31 位のスロバキアの間の規模に相当します。

図表２－６　市内総生産とＯＥＣＤ諸国国内総生産との国際比較



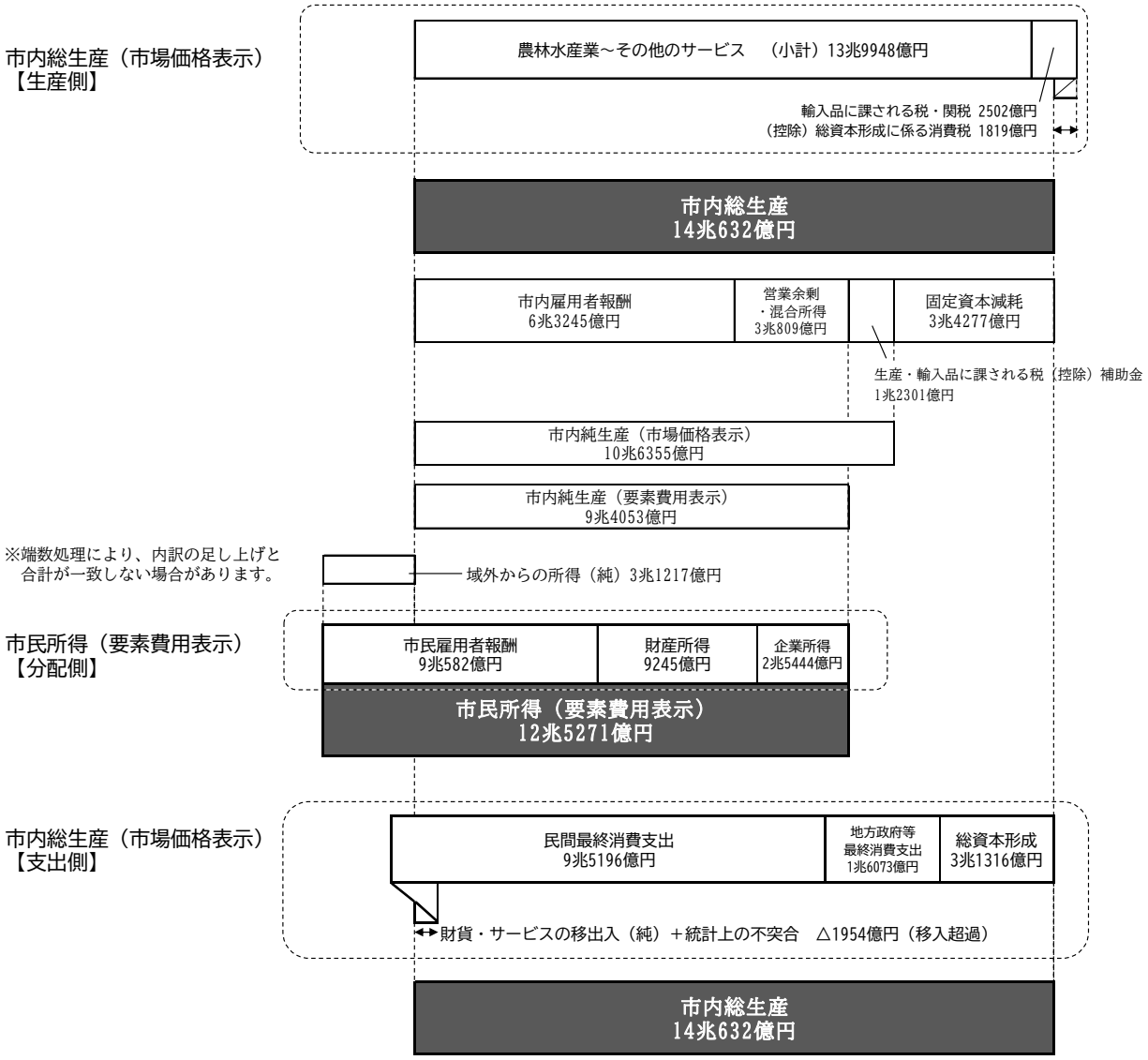
＊　ＯＥＣＤ諸国の計数は、「世界の統計2023」（総務省）によります。
＊　円の対ドルレートは、東京市場インターバンク直物中心相場の各月中平均値の12か月単純平均値です。
＊　神奈川県及び横浜市は年度値です。
＊　神奈川県、横浜市については、令和２年度県市民経済計算の結果をもとに、１ドル＝106.04円で換算。

参考１　神奈川県及び国との経済規模比較

項目	横浜市	神奈川県	国
経済規模	市内総生産 名目　14 兆 632 億円 （対県シェア 41.5% 対国シェア 2.6%） 実質　13 兆 6639 億円	県内総生産 名目　33 兆 9055 億円 実質　33 兆 2649 億円	国内総生産 名目　537 兆 5615 億円 実質　527 兆 3884 億円
経済成長率	名目-1.9% （６年ぶりのマイナス成長） 実質-3.3% （２年連続のマイナス成長）	名目-3.2% （２年連続のマイナス成長） 実質-4.3% （２年連続のマイナス成長）	名目-3.5% （８年ぶりのマイナス成長） 実質-4.1% （２年連続のマイナス成長）
市民所得	市民所得 12 兆 5271 億円 （前年度比 4.6%減） １人当たり 331 万６千円 （前年度比 5.2%減）	県民所得 27 兆 3544 億円 （前年度比 5.2%減） １人当たり 296 万１千円 （前年度比 5.4%減）	国民所得 357 兆 3887 億円 （前年度比-6.6%減） １人当たり 297 万５千円 （前年度比 6.4%減）
推計人口 令和2年10月1日現在	377 万 7 千人	923 万 7 千人	1 億 1261 万 1 千人

（神奈川県及び国の数値については「注意事項」をご覧ください。）

参考２　横浜市の市民経済計算の構成



注意事項

1　推計方法の改善や新しい統計調査結果の反映等のため、平成23年度まで遡ってデータ改定を行っています。このため、これまでに公表した計数と今回公表する計数を合わせて利用することはできません。令和元年度以前の数値についても、今回公表する計数をご利用ください。

2　市内総生産は、市内の経済活動によって生み出された付加価値の総額です。経済成長率は、市内総生産の対前年度増加率です。

3　「名目」は各年度の市場価格で計算した値であり、そこから物価変動分を除いたものが「実質」です。したがって、「名目」の方が「実質」より経済成長率が高い場合、物価が上昇したことを表します。
　なお、本資料では特に断りがない場合、「名目」を表しています。

4　１人当たりの市民所得は、市民所得の合計を10月１日現在の総人口（補正値）で割った額です。これには企業所得が含まれるため、個人の年間所得とは異なります。

5　市民経済計算の推計に当たっては、各種統計調査結果や本市独自の調査結果等からデータを入手し、内閣府が都道府県を対象に作成した「県民経済計算標準方式」に準じて行っています。この「県民経済計算標準方式」は、国際的な基準となっている国民経済計算体系（SNA ＝ System of National Accounts）と同様の概念に基づいて作成されています。

6　推計の基礎となる令和２年度の県及び国の各種統計調査結果は、その多くが令和３年度後半から令和４年度前半にかけて公表されています。本市の推計結果はこれらを利用して作業を行っているため、この時期の公表となります。

7　この資料で使用した神奈川県及び国の計数は、次のとおりです。

(1)　「令和２(2020)年度神奈川県県民経済計算」（令和５年４月28日公表）
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc20/sna/top.html

(2)　「2021年度国民経済計算（2015年基準・2008SNA)」（令和４年12月23日公表）
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kakuhou/files/2021/2021_kaku_top.html

「令和２年度　横浜市の市民経済計算」推計結果の詳細は、
横浜市ウェブサイトの「統計情報ポータル」を御覧ください。

https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/tokei-chosa/portal/

お問合せ先
政策局統計情報課長　石川　俊則　Tel 045-671-2050